

EVERNEW

OUTDOOR NEWSLETTER

2011年(平成23)10月26日号

(株)エバニュー アウトドア Div.

今後送信を希望されない方は、その旨を明記の上返信をお願い致します。

TEL.03-3649-3181 FAX.03-3649-6996

フットパスシンポジウム IN ながい

第4回日本フットパス協会シンポジウム／第9回最上川リバーツーリズムセミナーが、10月1～2日に山形県長井市を主会場におこなわれ、初日のシンポジウムと2日目のフットパスに参加してきました。

この耳慣れない「フットパス」という言葉は YAHOO 辞書に次のように書かれています。

『森林や田園地帯、古い街並みといった、昔からある風景を楽しみながら小道を散歩すること。「フットパス」は日本語に直すと「散歩道」となる。発祥はイギリスで、広大な貴族の領地によって、庶民の生活のための道が分断されることに対して「歩く権利」が主張されるようになり、その貴族の私有地の中の通り抜けが認められるようになったのが始まりとされている。イギリスでは「ランブラー」(ぶらぶらと歩く人)が多く、それが日本にも影響を及ぼすようになっている。田んぼの畦道や森の中など、昔からあるありのままの自然や農村の集落などをぶらぶらと歩いて楽しむのである。地方自治体でもこうした動きに目をつけて、北海道黒松内町では国内北限のブナ林、ジャガイモ畑、牧草地など、東京都町田市では多摩丘陵の里山、鎌倉古道などにフットパスを設けている』

さて、日本のフットパスは 1990 年代後半になって北海道ではじまったといわれています。観光で訪れる人は観光地を見てすぐに車で移動してしまいます。手つかずの自然が残る北海道では、付近に名所がなくても遊歩道を整備すれば「歩きたがっている人」が訪れ、しかも滞在時間が長くなるために地域への愛着が増して再訪を期待できます。ほぼ時期を同じくして東京町田市の多摩丘陵でもフットパス活動がはじまっています。市民団体が中心となり里山、田園地帯にある美しい風景や、緑の中の小道を繋げたフットパスコースを地域と協力して整備しています。そしてフットパスコース整備のプロセスそのものが、地域が地域自身を見つめなおし、自らのよさに誇りを持つとともに、抱える課題に向き合っていくまちづくりのきっかけ

となっています。

今回フットパスが開催されました長井市は、江戸時代に日本海の酒田港と上杉氏の城下町米沢を結ぶ最上川舟運の終着港として栄えました。

その長井市のフットパスコースは、歴史や文化に思いをはせる「まちなかルート」、舟運と風光の「最上川ルート」にいくつかのコースがつけられています。(下の写真)



最上川右岸から朝日連峰



朝日町の里山とリンゴ畑

日本フットパス協会URL: <http://www.japan-footpath.jp/>

エバニューは「フットパス」、「ロゲイニング」など新しいアウトドアアクティビティ、イベントに積極的に参加し用品の開発・改善に役立たせて行きます。